コロナ流行下における稲爪神社祭祀観察報告

三田　牧

近年、神戸学院大学の学生も参加させていただいてきた稲爪神社秋の大祭でしたが、2020 年、2021 年は新型コロナウィルス感染症の流行により、ごく限定的な形で執り行われました。ここに観察したことを記録しておきます。

2020 年 10 月 9 日、雨の中、数名の役員の参加のもと、秋の大祭の祭祀が行われました。祝詞では、新型コロナウィルスで人々が困っていることが神様に伝えられていました。

この日、「初詣はどのような形式でするのですか」、という質問があり、お神酒のふるまいをしないことや、おみくじの自動販売機を購入したことなど、宮司さんが説明されていました。「こんな簡単な形で秋の大祭をするのは、私の経験でははじめてです」と、菅谷宮司はおっしゃっていました。

写真 1　おみくじの自動販売機
（三田牧撮影）

2021 年はもう少し賑わいがありました。10 月 9 日の秋の大祭宵宮では、地域集団による獅子舞奉納がありました。通常であれば、門前で大勢の人垣の中で行われますが、この年は、限られたメンバーで、神社本殿の中で二組の獅子が舞いました。まず、西之組、次いで保存会の獅子舞が数演目のみ奉納されました。共に厄除けの舞という位置づけで、獅子が「疾病退散」と書いた布のついた矢をくわえるなど、通常はない趣向が見られました。

一方で、地域集団の人たちがそろってお祓いを受けている姿には、いつもと変わらない敬虔さと、長年共に活動してきた人たちならではの一体感がありました。

写真 2　疾病退散（三田牧撮影）

写真 3 は 2021 年 1 月の稲爪神社です。この時鈴を鳴らす紐は、感染予防のため、上げられていました。神様にとっても、神社にとっても、地域社会にとっても、異例なことがたくさんあった 2 年でした。

写真 3　鈴の紐が上げられている
（三田貴撮影）